

# らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

新年あけましておめでとうございます。  
今年もらくだ図書館をよろしく願います。

ところで私、去年ブログをやっていて、改めて気付いたことがあるんですよ。

私って去年離婚したじゃないですか。  
それで久し振りに社会復帰したじゃないですか。

だから最初はブログやめようかなと思ったんです。  
これからは時間的に更新が難しくなるだろうなって。

でもいざやってみたら、1年ちゃんと続いたというか、むしろ主婦時代より更新ペース安定してるんじゃないの説。

それで改めてわかりました。  
忙しくて大変な時ほど私にはブログが必要なのだと。

書けば気持ちを整理できるし、それを読んでくれる人がいることも最高に嬉しいし、やっぱり私は文章を書くことが心の底から「好き」だなあって。

まあそうですよね。  
でなければ丸8年もブログやりませんからね。

そういうわけなので、商業デビューできるかどうかに関わらず、文章を書く活動はこれからも長く続けるつもりです。

皆様もそれぞれ、書き続ける理由は色々あると思いますが、やっぱり根幹にあるのは「好き」という感情じゃないでしょうか。

私もそんな感情を大事にしつつ、さらに愛される投稿ブログを目指しますので、2020年も引き続きどうぞよろしく願います。

お正月中は出版社のサイト更新がありません。  
よって常木らくだが一人で雑談する流れになります。

雑談というか、最近ちょっと考えているのは、このブログを今後どういう方針で進めていくかという問題。

今は基本的にコンテストを紹介する方向でやっています。  
たまに投稿とまったく関係ない話題に走る日もありますが。

ただずっと紹介だけでは単調ですし、もっと自分自身のリアルな戦況（送った・通った・落ちた等）を発信したいなと思いつつ、投稿してないからできないという。

あつでもでも。  
単発のコンテストにはこれでも結構応募してます。

ただそういう企画って中間発表がないから、落ちたらそのままフェイドアウトするし、発表がいまいち盛り上がらないんですよ。

やはり古参のドMワナビとしては、1次通過してサイトに名前が載った後、2次や3次で惜しくも落選するって流れが、公開羞恥プレイみたいで一番ドキドキする上にブログも書きやすいんですが……！

まあそれより興奮するのはどう考えても受賞ですけど。  
そっちは未体験ゾーンなので今の自分には何とも言えません。

というわけで、ブログの方針で悩んでいると思わせつつ、結局は自分の変態性を披露しただけですが、私が自由に書くとかこういう事故が起こります悪いのは更新がないお正月。

そんな感じで2020年もよろしく哀愁。

お正月は出版社の新情報がないので常木らくだが（ry

というわけで。

今回もブログに関するひとりごとです。

このらくだ図書館は、一応 2012 年から書いてますけど、一度 2017 年 11 月に出産で無期限休止したんですよね。

その期間はもちろんアクセスが減りました。

まあ更新しない宣言をしたわけなので当然ですが。

何度も書いている通り、私はその後 2018 年 1 月に息子を失って、ブログを再開しました。

正直その時は読者なんて一人もいないだろうなって思ったんです。

ただ行き場のない悲しみを書かずにはいられないから書いただけで。

で、翌日かな？ 反応を見てびっくりしました。

ちゃんと PV があったし励ましのコメントも複数あった。

もし私が逆の立場だったら、さすがに重すぎる内容だし、なんて声かけていいかわからないし、記事を読んでも見なかった振りしちゃうだろうなと思います。

ちなみに告知とかは全然せず、ひっそり再開したんですよね。

迷ったけどツイッターで不特定多数に拡散するような話じゃないですし。

つまりその記事を読んできた人は、いつ再開するかもまったくわからないのに、このブログを定期的にチェックしてくれていたわけです。

もうね。

本音言っちゃいますよ。

## お前ら好きだ！！！（告白）

なお、誰が何回訪問しているかはこちらに全然見えませんが、単純に PV 数だけで言うと休止前の半分くらいの規模になりました。

半分減ったのは仕方ないですが、むしろ、半分も残ったことが驚きです。

というわけで、普段は何気なくやっていますが、実は皆様にはすっごく感謝しているので、恩返しと呼ぶのは図々しいかもですが、今年も投稿に役立つ情報を発信できればと思います。

以上。

突然の愛の告白(?)でした。

## ジャンプ小説新人賞 2020 - 2020.01.04 Sat

---

こんにちは、らくだです。

今回はジャンプ小説新人賞 2020 をご紹介。  
応募規定が前回と変わっているので要注意です。

【ジャンプ小説新人賞 2020】

<https://j-books.shueisha.co.jp/prize/award20/>

- ・ 受付期間 2019年12月21日～2020年10月31日
- ・ 規定枚数 40字×32行で10～30枚
- ・ 応募方法 ウェブ応募のみ受付
- ・ 受賞特典 50万円& 楯 & 賞状 & 少年ジャンプ+にて漫画化

今回フリー部門の開催はありません。  
テーマ部門のみの実施でテーマは以下の2つです。

- (1) バディもの
- (2) 見本の帯に合う小説

見本の帯は募集要項に載っています。  
そこには爽やかな水色でこんな宣伝文句が。

「2020年一番泣ける物語 最後の一行で涙が止まらない！」

最後の一行ってことは、途中で読者を泣かせてしまったら、フライングでアウト判定なんじゃないかな？？？

それはともかく、枚数が比較的少なめで応募しやすい上に、ジャンププラスで漫画化のチャンスもあるので、皆様是非チェックしてみてください。

皆様こんにちは。

今回は離婚関係のぼやきです。

まあ離婚の是非は個人の主観によるでしょうが、自分が制度的に「？」と思ったのは、パスポートの名字の変更ができなかったこと。

旅券は基本的に記載事項の変更ができません。

なので結婚あるいは離婚した場合は次のいずれかを取得します。

- ・ 新規旅券（10年）16,000円
- ・ 新規旅券（5年）11,000円
- ・ 記載事項変更旅券 6,000円

記載事項変更旅券というのは変更前の期限を引き継いだ旅券。

残り1年の状態で申請すれば残り1年のパスポートが発給されます。

たとえば紛失の再発行が有料とかだったら、いわば本人の不注意だから理解できるけど、姓の変更って別に本人の非じゃないですよ。

なのに有料……。

しかも手数料めっちゃ高い……。

なお旧姓の旅券をそのまま使うという選択肢もあるのですが、入出国時に説明が必要になったりするので、旅行会社は基本的に新規で取得することをオススメしています。

もちろんパスポートって重要な身分証ですし、内容変更には万全を期す必要があるわけで、そのために手間が掛かる⇒有料って理屈も理解できるんですけどね。

というわけで、特にオチらしいオチありませんが、パスポートの現行制度に疑問を感じたという話でした。

正月休み終わったのに新情報が何もない！  
ええーいこうなったら今回もひとりごとだ！

というわけで。

今回は阪急電鉄の「ブログ de バーチャル駅長」募集の話題です。

【ブログ de バーチャル駅長 2020】

<https://www.hankyu.co.jp/ekiblo/guide/boshu2020.html>

バーチャル駅長とは何かと言うと、阪急沿線の魅力をアピールするブログの書き手を、一般から募集するというものです。

任期は基本的に1年間。

最優秀賞の受賞者には30万円分の旅行券などが贈られます。

ピンポイントな地域ネタで申し訳ないですが、私この企画に以前からとても興味があって、毎年この時期になると応募しようか悩んでるんですよね。

なお活動内容は、

- ・ ブログでの阪急沿線に関連した様々な情報発信（できるだけ写真を交えて）
- ・ 読者とのコメントのやりとり
- ・ 努力目標⇒ブログ記事を1週間に3回以上執筆する（読者目線でブログを毎日チェックしたくなる更新頻度の目安）

自分もやってるからわかるけど、写真入りの外出記事を1週間に3回以上執筆してそれを1年間継続するのは、たぶん相当に大変なはず（汗）

まあ立候補しても採用されるかわからないですし、日常のマンネリ打破のためにも、勇気を出して応募してみようかな……と思います。



こんにちは、らくだです。

ビーンズ編集部のインタビューがカクヨムブログで公開されました。  
ダ・ヴィンチニュースからの転載のようで読み応えのある内容です。

【ビーンズ編集部インタビュー】

[https://kakuyomu.jp/info/entry/beans\\_interview\\_19th-award](https://kakuyomu.jp/info/entry/beans_interview_19th-award)

新人賞についてもかなり触れているのですが、特に興味深かったのは、最近の投稿作品の傾向に関する話でしょうか。

抜粋するとこんな感じ。

やはり応募媒体によって作品の傾向は違うそうです。

- ・「カクヨム」異世界ファンタジーや、スローライフ要素を含む新文芸と呼ばれる作品に近い作風のもの
- ・「魔法のiらんど」高校生の恋愛などの現代的なラブストーリー

なおビーンズ Web フォームの応募作は人気の特性を網羅していてバランスの良い作品が多いようです。

なんかこれ、すっごく納得できる気が。

たぶん Web フォームから個別に応募する投稿者さんは、基本的に送る賞を意識してるから、レーベルのポイントを押さえた作品を書くんですね。

逆に小説掲載サイトの場合、普通は小説そのものが先にあって、そこにタグ付けして参加する感じだから、各サイトの傾向を反映した作品が多いんだろうなと。

もちろん例外もあるでしょうが、投稿作品がバラエティ豊かなのはいいことですし、今後も幅広い作品を受賞させて&出版して欲しいです。

こんにちは、らくだです。

サントリーのボスといえばコーヒーの商品名ですが、今日コンビニへ行ったらボスの紅茶を見かけました。

いつの間にか紅茶も出していたんですね。

珍しいから買ったけど普通に美味しかったです。

そして最近のボスは、紅茶に手を広げただけでなく、なんとライトノベルの募集までしている模様。

賞名はその名もクラフトボスライトノベルコンテスト。

さすがに冗談だろうと思ったらガチで募集してました。

#### 【応募要項】

<https://suntorynomu-award.com/>

- ・ 募集テーマ 『お仕事』
- ・ 受付期間 2019年12月27日(金)～2020年2月3日(月)
- ・ 結果発表 2020年2月28日(金)
- ・ 規定字数 2,000字～20,000字程度
- ・ 応募方法 専用フォームからウェブ応募
- ・ 最優秀賞 10万円 + クラフトボス1ケース + 描きおろしイラスト

なお同時開催のイラスト部門は「クラフトボス商品をかならず盛り込んでください」という指定条件がついています。

小説の方は何も書いていませんが、せっかくボスのコンテストへ応募するからには、コーヒーがキーアイテムの作品を書くのも面白そうですね。

以上、クラフトボスライトノベルコンテストの紹介でした。

こんにちは、らくだです。

グーグルマップの位置情報をオンにしてたら、「あなたが 2019 年に訪問した場所リスト」みたいなメールが送られてきたんですが、アプリってこういうデータ拾ってるんですね。



Shinagawa City  
New



Urayasu



Ibaraki

上段の品川はまあいいでしょう。

ゆっくりできなかつたけど確かに出張で訪問しました。

右下の茨木は、あたかも観光地のように表示されてるけど、地元だからアプリに位置情報を拾われたのは納得です。

問題は左下の浦安だ。

なんか当然のように表示されてるけど去年は一度も行ってないぞ。

いやまあ私ディズニーオタクですし、公式ブログは毎日欠かさずチェックしてるし、行きもしないのにアトラクション制覇ルートを脳内で妄想してますけどね？

意識が浦安を訪問したんでしょうか……。

それとも知らないうちに本当に行ってたのかな……。

他にも色々な場所が載っていて正確だったので、キャッチの精度が低いわけでもなさそうですが、何故シンデレラ城が……という疑問が残ります。

アプリの位置情報機能は敬遠する人もいますが、こうやって後で振り返れるのは面白いですし、自分は今後も使っていこうと思いました。

## オーバー 30 歳主人公コンテストの結果- 2020.01.10 Fri

---

こんにちは、らくだです。

カクヨムで開催された「オーバー 30 歳主人公コンテスト」の発表がありました。

以下リンク。

受賞者の皆様はおめでとうございます。

【発表ページ】

[https://kakuyomu.jp/contests/over30\\_main\\_character#result](https://kakuyomu.jp/contests/over30_main_character#result)

- ・ 応募総数 482 本
- ・ 中間通過 23 本
- ・ 受賞作品 6 本

今回は主人公の年齢が 30 歳以上という異色のコンテストでしたが、予想以上に様々な作品が集まったようで、レーベルの枠を超えた形で書籍化を考えたいと総評に書いてあります。

受賞作を見ると「確かに」という感じです。

主人公の年齢が 60 歳の作品とかありますからね。

例えば自分だったら、富士見 L 文庫で 30 歳以上とくれば、無難にアラサー主人公のお仕事モノを書くでしょう。

でも規定はオーバー 30 歳なんだから、もちろん 60 歳だって該当するわけで、そういう発想ができなかった自分はまだまだ視野が狭いなと思いました。

先日ビーンズの件でも触れましたが、従来のレーベルカラーと違った作品が集まるのは、ネット小説コンテストの面白い部分かもしれません。

以上、オーバー 30 歳主人公コンテスト結果発表の話題でした。

可愛いヒロインが上手く書けない？

だったらお前自身が理想のヒロインになるんだよ！

というわけで。

ツイッターで見た「ヒロイン属性診断（イラスト付き）」をやってみました。

【ヒロイン属性診断】

<https://4ndan.com/app/147/r/1>

診断ドットコム of 診断です。

いわゆるワンクリックではなくちゃんと性格を問う質問があります。

項目は全部で5個くらい。

すべて正直に答えたらこうなりました。

気弱で天然ならくだのヒロイン属性は「ドジっ子魔法少女」です！

ドジっ子バレてて草。

いやドジさに関する質問なんかなかったけど……。

きっと隠しても漏れ出るほどドジなんだね私って……。

ちなみに男性版もありました。

やってみたら結果はこんな感じでした。

大人しく控えめならくだの男性キャラ属性は「チワワ系草食男子」です！

この内容が当たっているかはさておき、属性は小説のキャラクター作りにも重要ですし、皆様も診断してはいかがでしょうか。

こんにちは、らくだです。

公募ガイドの連載「ヨルモの小説の取扱説明書」が更新されました。  
今回のテーマは「その5～視点の問題～」についてです。

【ヨルモの小説の取扱説明書】

<https://www.koubo.co.jp/reading/rensai/article/yorumo.html>

今回は視点の話ですが、一人称と三人称を比べた場合、自分は圧倒的に一人称の方が好きだし書きやすいです。

そもそも趣味が日記ですからね。  
三人称の日記とか基本的にありえないですし。

ただ一人称ばかり続けていると、妙な罪悪感を覚えてしまうので、三人称でも話が成立する場合はなるべく三人称で書くようにしています。

この微妙な気持ち、伝わるでしょうか……！

たとえ心の底からカレーが大好きでも、毎日食べ続けたら「健康に悪いな」とか「たまには一汁三菜の定食にしよう」とか思うし、好きだからこそ距離を置こうみたいな。

その結果、今までの投稿作はちょうど半々くらいですが、通過した作品は圧倒的に三人称の方が多くて、たぶん一人称だと自分の性格が前に出過ぎるんだらうと反省しています。

実際のところは、あまり片方だけに偏らず、作品によって自然と使い分けできるのが理想ですよ。

以上、視点の話についてでした。

## 第2回ファミ通文庫大賞 - 2020.01.13 Mon

---

こんにちは、らくだです。

カクヨムに完全移行した「ファミ通文庫大賞」が今年も開催決定しました。

以下リンク。

受付は来月2月21日からとなります。

【第2回ファミ通文庫大賞】

<https://kakuyomu.jp/contests/famitsu.2020/detail>

前回からの変更点を下にまとめました。

いずれも重要な部分なので要チェックです。

受付期間

2月1日～5月10日 ⇒ **2月21日～6月7日**

約1か月後ろ倒しになったようです。

春は競合の締切が多いからずらしたのかも？

規定字数

10万字～16万字 ⇒ **8万字以上**

上限に関する記載が消えました。

ただし文字数に関わらず選考は10万字前後までです。

あらすじ

言及なし ⇒ **必須**

指定文字数は400～800字前後ですが、「10万字までのあらすじ」と書いてあるので、すごく長い作品の場合は10万字までの内容を書けばいいようです。

受付期間が少し増えましたし、規定字数も制限が緩和されたので、全体的に応募しやすくなった感じですね。

以上、第2回ファミ通文庫大賞の紹介でした。

仕事後に学校へ通うのが大変なので、今月から土日集中コースに変更したら、家で休める日が1日もなくなりました。

このスケジュール組んだヤツ誰だよ……。  
いやもちろん過去の自分なんだけどさ……。

ということを先輩に相談したら、

- ・健康を害してまで頑張る必要はない
- ・でも時と場合によっては多少の無理も必要
- ・人並みに遊んでたら人より優れた資格なんて取れないから

一見シビアなんだけど、でも言ってる内容は本当にその通りで、やはり経験者の意見は的確だなと感じました。

これって投稿にも言えるんじゃないでしょうか。

執筆ってすごく時間を使いますよね。  
それに体力や精神力も相当に使います。

締切前は友達の誘いも断るし、他のやりたいことを全部我慢して、デビューできるかわからない不安を抱えつつ、私達はずっと誰も読まないかもしれない小説を書き続けているわけで。

でも確かに、投稿してない人と同じくらい遊んでたら、投稿で結果を出すなんて不可能なわけで、そのためには無理も必要なのが現実なのかなって思いました。

もちろん休息が同じくらい大事なのは言うまでもないですが。  
ずっと息が詰まるほどシリアスじゃ疲れますし楽しくないですからね。

まあとにかく、やる時はちゃんとやって、休める時はちゃんと休んで、切り替え上手な人間になりたいなと思いました。



こんにちは、らくだです。

公募ガイド2月号の特集は「まだ何も成し遂げていない君へ・2020年こそターニングポイントの年に！」というタイトルです。

【2020年こそターニングポイントの年に！】

<https://www.koubo.co.jp/magazine/tokusyu/202002.html>

なんとなく素人の私からすると、人気作家さんは簡単にデビューしているように見えますが、実際はそういう人ばかりじゃないんだよと紹介する内容です。

たとえば原田マハさんがデビューしたのは40代。

葉室麟さんは40代で書き始めてプロになったのは50代だそう。

ちなみにこれ、私も応募歴が長いからわかりますが、投稿というのは恋愛に似た部分があると思うんですよね。

最初の頃はとにかく夢中の熱愛期。

やがて現実的なマイナス面が見えてくる倦怠期。

そこを低空飛行のまま乗り越えると、良くも悪くも安定期に入っちゃって、「これだけやったら7年も8年も一緒だよ」みたいな悪い慣れが生じるというか。

そんな古参の投稿者にカツを入れ「○○先生もこれだけ苦勞してデビューしたんだぞ！お前も今年こそターニングポイントにしようぜ！」と訴えかける感じの特集です。

なおウェブには載っていませんが、雑誌の方にはコバルトでお馴染みの三浦しをん先生のコメントもあるので、本誌をチェックしようと思いました。

こんにちは、らくだです。

第5回カクヨムコンテストについて、応募ジャンルに関する問い合わせが多いらしく、公式ブログに見解が掲載されました。

【応募ジャンルに関するお問い合わせについて】

[https://kakuyomu.jp/info/entry/webcon5\\_info01](https://kakuyomu.jp/info/entry/webcon5_info01)

質問「この作品は応募部門が間違っているのではないか」

「自分の作品はどの部門に該当するのか」

回答「応募者の判断にお任せをしております」

ちなみに今回のジャンル分けは次の通り。

マイナージャンルが他部門に統合されて6部門となりました。

異世界ファンタジー部門、現代ファンタジー部門、キャラクター文芸部門、恋愛部門、ラブコメ部門、SF・ゲーム部門

内容が複数部門にまたがる場合、募集要項の説明や過去の受賞作などを参考に、自分自身で応募ジャンルを選べばOKということです。

ただし最後にこのような注意書きが。

「意図的に異なる部門へエントリーしていたと明らかに判断できる行為が確認された場合、審査の対象外となる可能性がありますのでご注意ください」

全然違うジャンルにわざと応募する人はいないと思いますが、「適切な部門にご応募いただけたほうが適切な選考を受けることができます」と書いてあるので、説明をしっかりと読んで最適な部門を選びたいところですね。

こんにちは、らくだです。

公募ガイドの連載「気ままに公募ママ」が更新されました。  
年明け1回目の今回は昨年の振り返りと今年目標についてです。

【インプットする】

[https://www.koubo.co.jp/reading/rensai/article/koubomama/200117\\_02.html](https://www.koubo.co.jp/reading/rensai/article/koubomama/200117_02.html)

筆者の塩田さんは昨年からの取り組みとして、毎月の投稿数と入選数をきちんとカウントし、自分がどれだけ活動しているか把握するようにしたそうです。

結果は1年間で投稿が425件。  
さらには入選が22件というさすがの活動ぶりです。

話を小説投稿だけに限れば、毎月大量に出すものではないですし、自分の投稿数は通常把握していると思いますが、数字が目に見えると達成感や反省につながるのには確かですよ。

それから、タイトルにもある「インプット」。

公募で入選するためにはたくさん出すのも大事ですが、アウトプットばかりではネタも枯渇しますし、やはりインプットが重要ではないかと書いてあります。

これには私も心当たりが。

投稿初期の頃は書きたい内容が山ほどあったのに、初投稿から10年たった今はそれが無いというか、なくなる寸前のシャンプーを水で薄めて無理やり使っている感覚があるというか。

言うまでもないですが、そんな水増しをすれば作品の濃度は薄まる一方なので、まずはしっかりシャンプーの補充をすることが必要なのかなと思いました。

こんにちは、らくだです。

旅行記などを数多く出版している産業編集センターが旅行エッセイの新人賞を開催しています。

以下リンク。

規定字数 8 万字という割と長めのコンテストです。

【わたしの旅ブックス新人賞】

<https://www.shc.co.jp/book/monvoyage/>

- ・ 募集内容 旅や冒険をテーマとしたエッセイ、紀行文、旅行記など
- ・ 投稿締切 2020 年 6 月 30 日（火）
- ・ 結果発表 2020 年秋ごろ
- ・ 規定字数 400 字詰め原稿用紙 200 枚以上（約 8 万文字）
- ・ 応募方法 ウェブ応募のみ受付（拡張子.doc .docx .txt）
- ・ 受賞特典 『わたしの旅ブックス』シリーズより商業出版

旅行エッセイの募集とか！

私のもっとも得意な分野じゃないですか！

……いや、調子乗ってすみません、別に得意なわけじゃないですね。

ただ私、旅行記は書くのも読むのも大好きで、この投稿ブログを始める前は旅行ブログをやっていたことがあるのです。

というわけで。

このコンテストには何が何でも参加したい。

勉強やら試験やら色々ありますが、6 月締切なら時間も充分だし（フラグ）、張り切って応募しようと思います。

## 第 5 回 JLPP 翻訳コンクール- 2020.01.19 Sun

---

こんにちは、らくだです。

今回は久し振りに翻訳の賞をご紹介します。

10 枚ほどの文学作品を英語またはドイツ語に翻訳するコンテストです。

### 【第 5 回 JLPP 翻訳コンクール】

<https://www.jlpp.go.jp/jp/competition5/competition5jp.html>

- ・ 受付期間 2020 年 6 月 1 日（月）～7 月 31 日（金）
- ・ 結果発表 2021 年 1 月末日
- ・ 応募方法 郵送応募、ウェブ応募

課題作品は以下の通り。

本文は上記サイトのリンクより閲覧可能です。

#### (1) 小説部門

野坂昭如・著「東京小説 家庭篇」

伊藤比呂美・著「みんなのしつと」

#### (2) 評論・エッセイ部門

谷川俊太郎・著「思いつめる 教育について 前提として」

田辺聖子・著「ヒロインの名前」

小説部門から 1 本、評論・エッセイ部門から 1 本、合計 2 本をセットで応募するという点に注意です。

いわゆる説明文と違って、文学作品には作者特有の文章の味わいがあるので、それをどう翻訳するかが難しいと同時に腕の見せ所になりそうですね。

以上、第 5 回 JLPP 翻訳コンクールの紹介でした。

## 第1回 家賃が高い！文学賞- 2020.01.20 Mon

---

こんにちは、らくだです。

今回は変わり種コンテストをご紹介します。

賞名からしてインパクト抜群の「第1回家賃が高い！文学賞」です。

【第1回 家賃が高い！文学賞】

[http://magazine.moonbark.net/special/yachiup\\_bungaku/](http://magazine.moonbark.net/special/yachiup_bungaku/)

- ・ 募集内容 以下参照
- ・ 投稿締切 2020年2月29日（土）
- ・ 結果発表 2020年3月末ごろ
- ・ 応募方法 作品データをメールに添付して応募
- ・ 受賞賞金 優秀賞（1作）5,000円など

<募集内容>

物件の種類・業態を問わず「家賃が高くなった」「家賃を上げると通告された」もしくは「家賃を高くした」「家賃を上げると通告した」という場面もしくは設定が作中で使われている小説

という条件付きのコンテストです。

めちゃめちゃ具体的なシチュエーション指定ですよ。

そして、さらに難しいのは規定枚数が原稿用紙2～5枚程度という点。

長編だったら色々書けそうな設定ですが、わずか5枚でこのシチュエーションをきちんと消化し、小説として完結させるのは至難の業です。

というわけで。

応募もさることながら受賞作を是非読んでみたい賞だなと思いました。

## #なかったことにしたい記憶- 2020.01.21 Tue

---

こんにちは、らくだです。

LINE モバイルが「なかったことにしたい記憶 Twitter キャンペーン」を開催しています。

入選するとコードレス掃除機が貰える模様。

これですべてを消し去ってね！ という意味でしょうか。

【#なかったことにしたい記憶】

<https://mobile.line.me/event/campaign/twitter-202001.html>

なお自分の場合、人生の9割はなかったことにしたい記憶なので、ツイッターの文字数ではとても書き切れず逆に応募が難しいです。

え、皆さんそうじゃないんですか？（真顔）

ちなみに例で載っているのは、

- ・「〇〇さんって誰ですか？」と、〇〇さんに聞いたこと
- ・酔っ払った後のラーメン

いやちょっと待ってください！

上はともかく酔っ払った後のラーメンは必要でしょう！

と思ったけど、たぶんこれ、体重的になかったことにしたいんじゃ……（納得）

まああんまりシリアスなのはアレですが、笑えるような失敗は笑い飛ばして、すっきり忘れるのもいいことですよね。

以上、「なかったことにしたい記憶 Twitter キャンペーン」の紹介でした。

ここしばらく仕事が忙しく、帰宅が深夜になってしまって、パソコンも触れないような状況でした。

更新を待っていた皆様には申し訳ありません。

そんな人いないでしょうがいと信じて謝るスタイル。

さてさて。

上に書いた通り最近忙しく、「時間がない」⇒「イライラする」⇒「雑なミスが出る」⇒「ますます仕事が増える」という、負の悪循環に陥っておりました。

真のラスボスは確定申告……。

しかも奴はまだ本気を出していない……。

まあとにかく、ギスギスしながら昼にカレー食べてたら、たぶん私の顔が怖かったんだと思いますが、お店のインド人のおちゃんが「今日どうしたの？」って声をかけてきて。

私は別にその店の常連ってわけじゃないんですよ。

たまに気が向いたら行く程度だし、いつもかなり混んでるお店だし。

にもかかわらず、おちゃんが私を覚えていて、声をかけてきてくれたことが、なんかすごく泣きそうになるくらい嬉しくて。

たぶん想像以上に心が弱っていたんでしょうね。

店員さんと話すのって本来は苦手なんですけど本当に嬉しかったです。

まあとにかく。

人はささいな出来事で落ち込むけど、ささいな出来事で救われたりもする。

小説を書く人間としてそういう心の機微を大切にしたいと思いました。



公募ガイドクラブの読者投稿に「これってどうなの？」という新コーナーができました。

特定のお題について読者が意見を投稿する企画です。  
締切が過ぎてしまいましたが第1回のテーマはこちらでした。

【第1回テーマ】

「エッセイ公募に作り話の投稿。面白ければいい？」

え、ダメでしょ？（困惑）

エッセイは事実だから面白いのであって！  
作り話を書きたいなら小説を書けばいいじゃないですか！

まあもちろん、賛否あるテーマだからお題になったんだろうけど、そこはしっかり線引きしたいというのが私の意見です。

気持ちはわかりますけどね。  
事実をただ書くだけじゃ退屈ですし。

なので内容をちょっと誇張したり、表現方法のアレンジはありだと思いますが、エッセイである以上まったくの作り話は持ち込みたくないというか。

なお自分がブログに書いている内容は全部事実です。  
レターパックライトで記入押印済の離婚届が送られてきたのも本当です。

むしろ作り話であって欲しいわ！！！（真顔）

という主張はさておき、様々なお題が提示されて面白いコーナーなので、これからも話題に取り上げていこうと思います。

今夜も残業……。

ちょっと夜食買ってこよ……。

と思ってコンビニへ行ったら、ストレスを低減する GABA チョコが売っていたので、即決で買わざるを得なかった。



噂じゃマユツバとか言われてるけど！

今の自分はワラにもすがりたい心境なんだ！

というわけで、脇目もふらずに完食して、しばらく仕事してたら急に気持ち悪くなってきた。

やだ何……？

賞味期限とか大丈夫だよな……？

で、裏の説明をよく読んだら、

「1日5粒を目安にお召し上がりください」

知らんがな。

25粒召し上がった後だぞ。

まあ確かに、気持ち悪くなったせいでストレスは忘れたので、パッケージ通りの効き目は確かにありました。

なおグリコの公式サイトには、5粒以上食べても害はありませんと書いてあったので、今回の件はただ単に私の体調の問題だったと思われます。

とにかく商品の説明は食べる前にきちんと読みましょう（自戒）

こんにちは、らくだです。

先日書いた「イライラしながらインドカレー食べてたら店のおっちゃんに声をかけられた件」について。

心配されてガラにもなく嬉しかったので、あれ以来そのお店に何度も通ってるんですが、そのおっちゃんは誰にでも馴れ馴れしくフレンドリーに話しかけていることがわかりました。

そっか……。

私だけが特別じゃなかったんだ……。

え、やだ、私なんで落ち込んでるの！？（少女マンガ的展開）

それはさすがに冗談として、人見知りな自分からすると、商売とはいえ誰にでも積極的に話しかけて会話を盛り上げる能力はすごいなど。

私にはまず無理です。

よく知らない相手は警戒しちゃいます。

まあこれだけ警戒して付き合う相手を選んでいても、レターパックライトで離婚とかいう大失敗をするわけですから、自分の警戒心はあんまり意味がないなとも思いますが。

いずれにせよ、自分にできないことを平然とできる人を見ると、憧れとか尊敬の気持ちが自然とわいてきますよね。

こういう心の機微は小説を書く上で重要ですし、もちろん小説以外の面でも、私生活において大切にしたい感情だと思いました。

エッセイは実話だから面白いんだ！  
作り話がしたいなら小説を書けばいいじゃないか！

と前に主張しましたが、もちろん小説をディスっているわけではなくて、フィクションにはフィクションならでの良さがあります。

小説って確かに作り話ですよ。  
極端に言うとそれは他人の空想なわけで。

でも私達は小説を読んで泣いたり笑ったりします。  
読み終わった後に「しょせん作り話だ！」なんて怒りません。

つまり、小説に書かれた内容はフィクションだけど、そこから受け取る喜怒哀楽の感情は本物で、だからこそ読後に満足感が得られるんじゃないかなと。

それは決して現実逃避なんかじゃなく、現実を生き抜くための活力になるし、人生に必要不可欠な時間だと思います。

そんな素敵な時間を提供……はできませんが、パブの更新をまだ紹介していなかったなので、突然ですが2か月分のリンクを貼っておきます。

【らくだ図書館（92）11月分】

<http://p.booklog.jp/book/129082>

【らくだ図書館（93）12月分】

<http://p.booklog.jp/book/129587>

小説そのものは作り話ですが、適当に書いたら感動まで作り物になってしまうので、気持ちが読者へ届くよう一文一文に情熱を込めたいですね。

こんにちは、らくだです。

まもなく締切を迎える第5回カクヨムコンテストがラストスパートキャンペーンを開催中。

今回は作者用と読者用の企画があります。  
それぞれの説明はリンク先をご覧ください。

【作者向け完走キャンペーン】

[https://kakuyomu.jp/info/entry/wc5-comp\\_cp](https://kakuyomu.jp/info/entry/wc5-comp_cp)

カクヨムコンに参加し応募締切までに10万字を越えた作品  
⇒抽選で20名に「トリのぬいぐるみストラップ」をプレゼント

カクヨムコン小説短編賞2019にエントリーしている作品  
⇒抽選で10名に「トリのぬいぐるみストラップ」をプレゼント

【読者向け応援キャンペーン】

[https://kakuyomu.jp/info/entry/wc5-review\\_pushup\\_002](https://kakuyomu.jp/info/entry/wc5-review_pushup_002)

応募作品に新たに星を入れ文字ありレビューを書いたユーザー  
⇒抽選で20名に「図書カード1,500円分」をプレゼント

読者向け企画はコンテストに参加していないことが条件です。  
自身が応募している場合はレビューを書いても当選対象になりません。

締切の1月31日はもう目前ですが、もうちょっとで10万字超えそう！という場合は、これを機にラストスパートをかけたいですね。

以上、カクヨム完走キャンペーン&読者応援キャンペーンの紹介でした。

こんにちは、らくだです。

夏にカクヨムで開催された「大人も子供も参加できる！カクヨム甲子園《テーマ別》」の2次発表がありました。

【発表ページ】

[https://kakuyomu.jp/info/entry/kakuyomukoshien2019\\_theme\\_final](https://kakuyomu.jp/info/entry/kakuyomukoshien2019_theme_final)

- ・ 応募総数 802 本
- ・ 1次通過 81 本（約 10 %）
- ・ 2次通過 15 本（約 2 %）

前も書きましたが今回のテーマは4つ。  
中高生の読者を想定した短編作品の募集でした。

「扉の向こうは不思議な世界」  
「恐怖は SNS から始まった」  
「キミは絶対に騙される」  
「きのう、失恋した」

これを見ていて思ったんですが。  
4つに共通しているのは「非日常感」なんじゃないでしょうか。

ただし非日常といっても、異世界ファンタジーのように明確な別世界ではなく、現実の中に隠れた「ちょっとした非日常感」が求められているのかなと。

まあ4つ目に関しては、非日常でも何でもなく、人によってはスーパーリアルでしょうけどね……（目そらし）

とにかく最終発表は2月らしいので、結果を楽しみに待ちたいと思います。

こんにちは、らくだです。

以前カクヨムで開催された「富士見 L 文庫× COMIC BRIDGE 頑張る女子主人公コンテスト」の結果発表がありました。

以下リンク。

受賞者様はおめでとうございます。

【発表ページ】

[https://kakuyomu.jp/contests/working\\_woman\\_comicalize#result](https://kakuyomu.jp/contests/working_woman_comicalize#result)

- ・ 応募総数 534 本
- ・ 中間通過 15 本
- ・ 大賞 1 本（現代部門）
- ・ 特別賞 1 本（ファンタジー部門）

受賞作の作品紹介を読みましたが、現代部門の方は女性自衛官レンジャーの物語で、ファンタジー部門は後宮物のようです。

やはりテーマがテーマですからね。

たとえば男性と同じ仕事をするにしても、そこには女子ならではの苦労や葛藤があって、でも大変なだけじゃなく同時にやり甲斐も存在するわけで。

最近はお仕事作品がブームですが、その辺をしっかりと表現できると、さらに一步ステップアップできるのかもしれない。

ちなみに今回の受賞作は、書籍化と同時にコミカライズもあるそうなので、どんな形で出版されるのか続報を待ちたいと思います。



こんにちは、らくだです。

公募ガイドの「これってどうなの？」という新コーナー。  
先月の第1回はエッセイの賞に作り話を投稿していいかという話題でした。

そして今回紹介する第2回。  
こちらにも投稿者にとって非常に気になるテーマです。

【応募規定の『職業』 & 『年齢』って必要？】

<https://www.koubo.co.jp/contest/literature/episode/077600.html>

公募へ応募する際に職業と年齢は必要かどうか。

嘘を書くのは前提として駄目なので、書くか書かないかの議論だと思いますが、自分は必ず書くようにしています。

性格的な問題もありますけどね。  
空欄のまま何かを出すのはすごく落ち着かないっていう。

ちなみに最近迷うのは、プロフィールに「未婚・既婚」の欄があった時、バツイチはどちらなのか。

なんかこれどっちも違う気がするんだ……。  
いっそ離婚と書いてあったら盛大にマルをするのに……。

とまあ、話がそれてしまいましたが。

最近は個人情報の保護という観点もありますし、任意選択だったら無理に書く必要はないですが、主催者が要求している項目はなるべく埋めた方がいいんじゃないかなと思います。

## #エスビーカレーアンバサダー- 2020.01.31 Fri

---

こんにちは、らくだです。

食品メーカーの S&B がカレーアンバサダーを募集中です。

応募締切は 2 月 11 日。

候補者数は約 30～50 名程度。

アンバサダーに選ばされると、S&B のカレーが毎月届けられるので、それを作って SNS でアピールするという内容です。

【#エスビーカレーアンバサダー】

<https://www.sbfoods.co.jp/ambassador/>

毎月カレーが届くなんて最高じゃないですか！

もし私が選ばれたらめっちゃめっちゃ真剣にアピールしますよ！

と思って応募要項を詳しく読みましたが、応募時に SNS のアカウントを記載する箇所があるので、たぶんカレー愛と同時に発信力も審査のポイントなのかなと。

つまり自分の場合、ブログはこの通り辺境の地だし、ツイッターは休眠アカウントレベルで活動してないし、インスタやフェイスブックはそもそも登録すらしてないという圧倒的不利感。

ぐぬぬ……！

これはもう今から締切までカレーの写真を載せまくるしか……！

まあでも、アカウント名は必須ではなく、その代わりにカレー愛の欄は必須項目なので、発信力は溢れる愛でカバー可能かもしれません。

というわけで。

カレー好きの皆様は応募してみてもいいかなと思います。